

第①回

あなたのお肌は何色ベース？

似合う色は「肌色の違い」で決まる

近藤 美保 [カラーデザイナー]

海外のエグゼクティブたちの映像を見て、楽しく思うことの1つに、色使いの上手さがあります。きちんとした印象ながら実に様々な色を使いこなしています。一方の日本はというと、どうも無難な組み合わせに終始している感があります。

この違いはどこにあるのでしょうか。本来日本人は四季の変化がはっきりとした国土に住み、色彩感覚も大変優れているはずですが。

洋服の歴史が短いということもあるでしょう。しかしながらそれ以上に、自分に似合う色やその色が持つパワーに無頓着であったというのが主な原因のように思われます。髪の色、目の色、肌の色が一人ひとり大きく異なる欧米人は、似合う色似合わない色ははっきりしており、自分に似合う色を意識して成長します。

日本人は目の色、髪の色はほぼ一緒ですから似合う色も一緒でしょう

か。これが全然違うのです。私たちの肌の色は黄味がかかった人もいれば青味がかかった人もいます。そしてこの肌色の違いによって似合う色が大きく異なってきます。この肌の色の違いを「イエローベース」と「ブルーベース」と呼ぶことにします。人は必ずこの2つのタイプのどちらかに入ります。中間はありません。このタイプは、日焼けしても歳をとっても変わらないのです。

【イエローベース】

肌の表皮に黄色い色素が多く見られる人。色白か色黒か、または日焼けとも関係ありません。

【ブルーベース】

肌の表皮に黄色い色素が少なく、その下の血液の色であるブルーの色の影響を受けている人。

通常、カラーの専門家はこの肌タイプに個性のタイプを考慮して、人それぞれのタイプを細かく分類します。ここでは、ご自身でイエローベースかブルーベースかを簡単に見分ける方法を紹介します。「はい」「いいえ」でお答えください。分からない時は家族など

周りの方に聞いてみてください。割とよく見ているものです。

- ① スーツは、茶系よりもグレー系/ブラック系のほうが似合う。
- ② 生成りやクリームシャツより、真っ白やグレー系のシャツが似合う。
- ③ 眼鏡はゴールドのフレームよりシルバーのほうが似合う。
- ④ 赤い色のネクタイは、黄味のかかった色よりワイン系のほうが似合う。
- ⑤ 日焼けすると赤くなり、すぐには黒くならない。
- ⑥ 目の白目の部分が青味を帯びている。または黄味が少ない。

「はい」が多ければブルーベース、「いいえ」が多ければイエローベースです。私が今まで肌色を分析してきた経験では、日本人はブルーベースの方のほうがやや多いという感触です。

さあ、あなたはどちらのタイプでしたか。次号からはそれぞれのタイプに適したカラーコーディネートや、服装にとどまらない、ビジネスシーン別のカラーの有効な生かし方などについてお話していきます。 (次号に続く)



こんどう みほ氏 ● 慶應義塾大学経済学部卒業後、CBS・ソニーグループで商品開発に携わる。同社退社後、カラーに関する知識と経験を生かし、個人へのアドバイスのほか、通信販売における商品開発や企業のイメージコンサルティングも手掛ける。カラーコーディネーター1級(文部科学省認定資格)